

平成 30 年 4 月 26 日現在

機関番号：12601

研究種目：挑戦的萌芽研究

研究期間：2015～2017

課題番号：15K12956

研究課題名(和文) 宗教組織の経営についての比較民族誌的研究

研究課題名(英文) Comparative ethnographic study on the management of religious organizations

研究代表者

藏本 龍介 (KURAMOTO, RYOSUKE)

東京大学・東洋文化研究所・准教授

研究者番号：60735091

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 2,600,000円

研究成果の概要(和文)：・2015年度：メンバーのこれまでの研究内容を共有すると同時に、「宗教組織の経営」という問題をいかに共通の枠組みで分析しうるか議論した。・2016年度：前年度の議論を踏まえ、経済人類学者(住原則也氏)、宗教社会学者(白波瀬達也氏)を招き、シンポジウムを開催した。そしてその成果を『「宗教組織の経営」についての文化人類学的研究』(2017年、南山大学人類学研究所)として刊行した。・2017年度：前年度までの議論を踏まえ、「宗教と社会」学会(2017年6月)において、宗教社会学者(西村明氏)をコメンテーターとして招き、「宗教組織の「経営」についての民族誌的研究」と題するテーマセッションを開催した。

研究成果の概要(英文)：In 2015, we shared the contents of the research on religious organizations that members had conducted individually, and discussed how to analyze the issue of "management of religious organizations" in a common framework. In 2016, based on the discussion of the previous year, we held a symposium inviting an economic anthropologist (Dr. Noriya SUMIHARA) and a religious sociologist (Dr. Tatsuya Shirase). The results were published as "Cultural anthropological research on the management of religious organizations" (the Institute of Anthropology of Nanshan University). In 2017, based on the discussion of the previous year, we held a theme session entitled "The Management of Religious Organizations" at The Japanese Association for the Study of Religion and Society, inviting a religious sociologist (Dr. Akira Nishimura) as a commentator.

研究分野：文化人類学

キーワード：宗教 組織 経営 民族誌 人類学

### 1. 研究開始当初の背景

現代社会における宗教現象の動態という問題について、宗教人類学・宗教社会学では、主に「宗教の需要側」に注目した研究がなされてきた。つまり近代化と総称されるような社会変動に伴い、宗教への需要が低下・多様化・個人化している、といった議論である(大塚編 2002; 田辺編 1995; Casanova 1994; Wilson 1976 など)。しかし社会変動がなぜそのような需要の変化をもたらすのかという問題を、十分に説明できているとは言いがたい。したがって宗教の世俗化/再活性化、個人化/公共化といった相反するイメージが、同じ社会変動というコンテキストによって説明されるという状況になっている。こうした問題を克服するためには、社会変動と宗教的需要の変化の動態的關係を、具体的に説明できるような新たな方法論が必要である。

### 2. 研究の目的

近現代の社会変動に伴い、宗教組織もまた、企業と同じく「経営」という問題に直面している。つまりいかなる目的をいかなる方法で達成するのか、各宗教組織は常に決断と反省を迫られるようになってきている。それでは宗教組織は実際に社会変動にどのように対応しているのか。つまりどのように「経営」されているのか。本研究ではこの問題について、アジア・アフリカにおけるイスラーム圏、キリスト教圏、仏教圏を事例として、現地調査を通じて実証的に明らかにする。それによって現代社会における宗教組織の実態に迫ると同時に、各地における宗教と社会の動態的關係を浮き彫りにする。さらにその手法をモデル化することによって、宗教研究の新たな方法論を提示することを目的とする。

### 3. 研究の方法

こうした問題意識のもと本研究では、「宗教の供給側」、つまり宗教組織の活動に注目した研究を行う。本研究を構成する代表者・分担者は、アジア・アフリカのイスラーム圏、キリスト教圏、仏教圏の宗教組織について、文化人類学・民俗学の立場から長期に渡り現地調査を実施してきた。そこで本研究では第1に、現地調査を通じて、各宗教組織の活動について「経営」という統一的な視点から明らかにする。第2に、こうした宗教組織の活動が、各地でどのような宗教現象をもたらしているかを明らかにする。第3に、個別事例を比較検討することによって、共通点・相違点を浮き彫りにすると同時に、「宗教組織の経営」に注目した宗教研究の新たな方法論を提示する。

### 4. 研究成果

本研究の結果、以下のような問題点が浮かび上がった。

第1に、「経営」という概念をどのように捉えるか、という問題がある。本セッション

では、「経営」を「特定の経営主体の試行錯誤」として捉えた。しかし議論を通じて明らかになったのは、「経営」という現象は、当事者であっても統制できるものではなく、むしろ彼/彼女らの思惑を超えた事態が次々と生じる中で展開する、それ自体が一つの生命のような動態的なプロセスであるということであった。したがって、特定の経営主体がどのように考え、何を行ったかという問題よりも、そうした考えや行動を含め、様々な要素が絡み合いながら均衡が形成される、あるいはそうした均衡が崩れていくプロセスにこそ、焦点を当てていきたいと考えている。

第2に、「カネ」の位置づけ方という問題がある。本セッションでは、「カネ」の問題に特別な注意を払った。つまり、財をいかに獲得・所有・使用するかという問題こそが、経営の根本的問題であると考えた。しかし議論を通じてみてきたのは、経営というプロセスは、カネだけでなく、カネを含む多種多様な「財」(聖地や聖なるモノも含む)、「ヒト」(組織の構成員)、「言説」(活動についての内外の評価、教義的位置づけなど)という諸要素が、それぞれ独自の論理をもって相互に影響を与え合いながら展開しているということであった。つまりそのダイナミズムを明らかにするためには、カネだけを独立変数として前提とするのではなく、現場においてどの要素が独立変数あるいは従属変数となっているか、それがいかに変化しているかという絡み合いに注目する必要があると考えた。

第3に、「組織」の捉え方という問題がある。本セッションでは、ある宗教現象に関わるアクター全体を、一つの組織として捉える見方を提示した。しかし現実には複数の組織が関わっているわけで、こうした見方には無理がある。むしろわれわれがみたかったのは、組織(群)を一つの要素として含みこむような、より抽象的な仕組み・システム、あるいは「制度」とでも呼べるようなものであった。つまり「宗教組織の経営」というテーマで捉えたかったのは、「宗教制度の形成・変容プロセス」という事象であったということになる。以上のような反省を踏まえ、今後の研究を進めていきたい。

### 5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文](計12件)

KURAMOTO, Ryosuke, Monks' Lives Shaped by Food: A Case Study in Myanmar. *Religious Studies in Japan* 4: 47-64, 2018, 査読有。

藏本龍介、「宗教組織の「経営」についての民族誌的研究」、『宗教と社会』24、印刷中、査読無。

門田岳久、「四国遍路の後背地：周辺から見る大師信仰と巡礼ツーリズム」、『四国遍

路と世界の巡礼』3: 47-55、2018、査読有。

岡部真由美、「宗教をとおした場所とつながりの創出：タイ北部における都市寺院の調査研究より」、『中京大学現代社会学部紀要』62: 61-98、2018、査読有。

門田岳久、「「離島性」の克服：宮本常一と反転する開発思想」、『立教大学観光学部紀要』19: 23-37、2017、査読有。

中尾世治、「植民地行政のイスラーム認識とその運用：ヴィシー政権期・仏領西アフリカにおけるホテル襲撃事件と事件の捜査・対応の検討から」、『アフリカ研究』19: 23-37、2017、査読有。

藏本龍介、「食」が形づくる出家生活、『宗教研究』90: 29-54、2016、査読有。

清水貴夫、「「ストリート・チルドレン」を再生産する NGO：ブルキナファソ、ワガドゥグ市の事例から」、『文化人類学』81: 312-321、2016、査読有。

門田岳久、「聖地観光の空間的構築：沖縄斎場御嶽の管理技法と「聖地らしさ」の生成をめぐって」、『観光学評論』4: 161-175、2016、査読有。

藏本龍介、「モラルを超えたモラル：現代ミャンマーにおける仏教の公共的役割についての一考察」、『コンタクト・ゾーン』8: 15-28、2016、査読有。

岡部真由美、「仏教僧による「開発」を支えるモラルティ：タイ北部国境地域におけるカティナ儀礼復興に関する考察」、『コンタクト・ゾーン』8: 29-44、2016、査読有。

門田岳久、「文化遺産の保護と活用を通じたソーシャルインクルージョン：沖縄県南城市における3年間の調査実習から」、『交流文化』16: 28-33、2016、査読有。

〔学会発表〕(計14件)

藏本龍介、「律遵守の僧院をつくる：ミャンマー・「森の僧院」の挑戦」、『宗教と社会』学会、2017。

清水貴夫、「宗教教育から世俗教育へ：ブルキナファソ・クルアーン学校の変容」、『宗教と社会』学会、2017。

門田岳久、「地域開発の中の聖地：沖縄における御嶽経営をめぐる組織内競争とその帰結」、『宗教と社会』学会、2017。

岡部真由美、「都市に生きる流民の場所：タイ北部における仏教寺院内スクウォッターから考える社会編成」、日本文化人類学会、2017。

中尾世治、「人頭税と植民地経済：1920年代のオート・ヴォルタ植民地における財政」、日本アフリカ学会、2017。

Takao SHIIZU, Seiji NAKAO, Hirohide KOBAYASHI, Miku ITO, "Transformation in the Kasena's large earthen compound houses in Burkina Faso", SOSTierra 2017 International Conference on Vernacular Earthen Architecture, Construction and Sustainability, 2017.

藏本龍介、岡部真由美、清水貴夫、門田岳久、「「宗教組織の経営」についての文化人類学的研究」、南山大学人類学研究所公開シンポジウム、2016。

KADOTA, Takehisa, Spiritual Tourists and Secular Pilgrims: An intersection of Religion and Tourism in a World Heritage Site in Japan, Folklore Society of Japan Joint Symposium "Perspectives and Positions of Cultural and Folklore Studies in Japan and Germany, 2016.

門田岳久、「沖縄・斎場御嶽をめぐる開発思想と住民参加」、日本文化人類学会、2016。

門田岳久、「公共聖地論：沖縄南部聖域における空間管理の技術と秩序生成をめぐって」、観光学術学会、2016。

SHIMIZU, Takao, Why his knee was broken?- Exposing the discrimination against an African resident in Japan, Asian Studies in Africa: Challenges and Prospects of a New Axis of Intellectual Interaction, 2015.

KURAMOTO, Ryoosuke, Morality beyond Morality: A case study of Theravada Buddhist monks in Myanmar, International Union of Anthropological and Ethnological Sciences, 2015.

OKABE, Mayumi, The 'Development' led by a Buddhist Monk and the Reconstruction of Religious Practices in the Thai-Burma Border Area of Northern Thailand: A Preliminary Analysis of the Revival of the 'Chula Kathin' Ceremony, International Union of Anthropological and Ethnological Sciences, 2015.

中尾世治、「植民地行政のイスラーム認識と対策の空転：ヴィシー政権期・仏領西アフリカにおけるホテル襲撃事件をめぐって」、日本アフリカ学会、2015。

〔図書〕(計9件)

中尾世治『オート・ヴォルタ植民地におけるカトリック宣教団とイスラーム改革主義運動：植民地行政と宗教集団の教育をめぐる闘争』、上智大学イスラーム研究センター、58頁、2018

宮原暁、東賢太朗ほか、『東南アジア地域研究入門 2 社会』、慶應義塾大学出版会、356頁、2017。

藏本龍介(編)『「宗教組織の経営」についての文化人類学的研究』、南山大学人類学研究所、103頁、2017。

清水貴夫、亀井伸孝(編)『子どもたちの生きるアフリカ 伝統と開発がせめぎあう大地』、昭和堂、304頁、2017。

飯田卓、門田岳久ほか、『文明史のなかの文化遺産』、臨川書院、376頁、2017。

金成玖、岡本亮輔、周倩、門田岳久ほか、『東アジア観光学：まなざし・場所・集団』、亜紀書房、320、2016。

藏本龍介ほか、『現代宗教 2016』、国際宗教研究所、273 頁、2016。

TANABE, Shigeharu, OKABE, Mayumi et al. Communities of Potential: Social Assemblages in Thailand and Beyond, Silkworm Books, 258p., 2016.

中尾世治、『ムスリム文化連合ヴォルタ支部史料集』、総合地球環境学研究所、184 頁、2016。

櫻井義秀、外川昌彦、矢野秀武、藏本龍介ほか、『社会参加仏教：アジアにおける宗教と政治』、北海道大学出版会、440 頁、2015。

〔産業財産権〕

出願状況（計 0 件）

取得状況（計 0 件）

〔その他〕

ホームページ等

## 6. 研究組織

### (1) 研究代表者

藏本 龍介 (KURAMOTO, Ryosuke)  
東京大学・東洋文化研究所・准教授  
研究者番号：60735091

### (2) 研究分担者

門田 岳久 (KADOTA, Takehisa)  
立教大学・観光学部・准教授  
研究者番号：90633529

岡部 真由美 (Okabe, Mayumi)  
中京大学・現代社会学部・准教授  
研究者番号：40595477

東 賢太郎 (AZUMA, Kentaro)  
名古屋大学・人文学研究科・准教授  
研究者番号：40438320

清水 貴夫 (SHIMIZU, Takao)  
広島大学・教育開発国際協力研究センター・  
研究員  
研究者番号：10636517

### (3) 連携研究者

( )

研究者番号：

### (4) 研究協力者

中尾 世治 (NAKAO, Seiji)  
総合地球環境学研究所・研究部・研究員  
研究者番号：80800820